

岡崎嘉平太記念館ホームページ紹介

<http://www.okazaki-kaheita.jp>

岡崎嘉平太記念館のホームページをご紹介します。



岡崎嘉平太記念館のご案内

開館時間 午前9時から午後5時(入館は午後4時半まで)
休館日 毎週火曜日(祝日を除く)、祝日の翌日(土曜・日曜・祝日
 年末年始(12月28日から1月4日))
入場料 無料

岡崎嘉平太語録 ホームページを開くたびに、
 いろいろな語録が表示されます。
 ■岡崎嘉平太伝より
 規則は現実にそっていいなくてはいけない。現実に沿わない
 ものならどんどん変えていくべき。制度が先だと考えて
 はいけない。

11月の開館カレンダー

月	火	水	木	金	土	日
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15



岡崎嘉平太記念館ホームページには、
 「最近の岡崎嘉平太記念館」、「電子ブック
 図書館」など、広く皆様に知っていただき
 たい新しい情報を掲載するよう心がけて
 います。
 そして新たに、岡崎嘉平太先生の様々な
 言葉をホームページを開くたびにご覧いた
 だけるようになりました。現代に生きる
 身にしみる言葉ばかりです。どうぞ、何度で
 もご覧になってください。
 (図は、ホームページのトップページの様子)

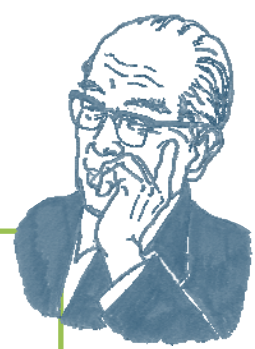
編集・発行：岡崎嘉平太記念館
 〒716-1241 加賀郡吉備中央町吉川4860-6 きびプラザ内
 TEL 0866-56-9033 FAX 0866-56-9066
 ホームページ <http://www.okazaki-kaheita.jp>
 Eメール okmh@okazaki-kaheita.jp

2009.12



岡崎嘉平太記念館

だより



Vol. 12

嘉平太氏が出会った人々

彼は軍嫌いですからね、彼に会うと軍の悪口を言うんですよ。しかし、勇敢だったですよ。中国人を苛めることは非常に悪いことだと思っていた。その点では、僕らと同じ考え方なんです。軍の関係で行っているものはあまり完造さんを好きじゃないんですね。でも、負けてからは仲良くなったですよ。

完造さんは本当に中国が好きだった人です。中国人の中で生きていた日本人です。あの人がいつ頃から上海へ行っていったかはよく知らないのですが、日露戦争の後、日本人が行商人みたいになって、ものを売りに行ったことがあるんですね。その一人なんだそうです。それで中国の方言をよく喋るようになってるんです。

人がいいんです。悪く動けば、中国人と仲良くしなければ、飯が食えんという状態でもあったでしょうけど、あの人はそういう策略ではなしに、本当に中国人が好きになってましたね。私なんかでも中国人が好きですよ。中国人はすべてに非常に寛大ですよ。我々も随分中国人には世話になってる。だから、中国人を苛める理由が無いですよ。軍が苛めるから仕方がないという感じですよ。

内山完造氏 UCHIYAMA KANZOJI



内山完造氏と妻みき氏

▼明治一八年(一八八五年)岡山県井原市芳井町で生まれた。高等小学校中退後、大阪に奉公に出た。二七歳でキリスト教に入信し牧野牧師と出会う。大正二年に牧野牧師の奨めで参天堂の目薬販売員として中国に渡り、中国人と寝食を共にしながら揚子江の流域で商売。大正六年に上海で内山書店を開く。魯迅氏や郭沫若氏等の中国知識人と交わり、特に魯迅氏との親交は深かった。

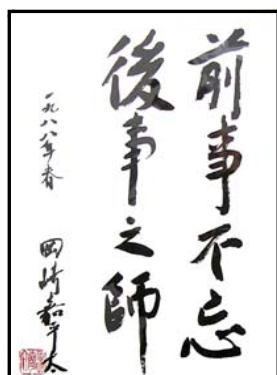
昭和二二年に日本に強制送還されたが、日中友好を唱えて全国を八〇〇回以上講演してまわった。昭和二五年に日中友好協会創立に参加し、初代理事長を務め、中国残留孤児引き揚げや日中関係改善に尽力した。

昭和三四年に病氣療養のため訪中の際に脳溢血で倒れ逝去(七四歳・一九五九年)上海万国公墓に埋葬された。

本年は、内山完造氏没後五〇年にあたる。

岡崎嘉平太がめざした世界平和への道を考える 第八回講演会開催

..... 平成21年10月17日(土)



岡崎嘉平太氏揮毫
「前事不忘 後事之師」

日高一先生には敗戦後の旧満州での体験を話していただきました。『前事不忘 後事之師』は岡崎氏がよく揮毫された言葉で、戦後64年を経ても戦争の惨禍を過去の事として忘れてはならないと身に迫って感じ平和の尊さを思い知りました。

日高先生は、中学生の時に終戦を旧満州で迎えられ、敗戦の混乱で家族五人を亡くされた体験を、兵役で内地におられたお父様へ報告するために『間島の夕映え』を著

されました。それを岡崎氏が偶然に読まれて日高先生に手紙を書かれて送ってもらい、お二人の交流が始まったそうです。

日高先生は、岡崎氏の印象を「人間としての基本的な優しさや思いやりを感じておりました」と話されました。そして、岡崎氏が「中国東北部へは足が重い」と何回も話されていた事を明かされ「岡崎先生は、旧満州が日本の侵略によってできた傀儡国家で、日本人としての良心の呵責があられた」と述懐されました。また「岡崎氏は“日本はアジアの国だから近隣諸国と仲良くしないといけない。満州事変以降の日本の戦争をしっかりと勉強して相手と話さないといけない”と説かれていた。そういうことを胸に止めて話しているかどうかは、相手方に伝わる」と話されました。



岡崎氏所有の間島の夕映え
見開きには日高氏に直接手紙を出し送ってもらったことが、記されている



ひだか はじめ
講師の日高一先生

片岡良仁先生は、岡山県井原市芳井町出身で本年が没後50年にあたる内山完造氏の生涯をお話くださいました。人を信用し相手の立場に立って、相手を尊重する生き方を身をもって貫かれた内山氏の生き方から、平和へつながる一人一人のあり方を教えられました。

内山完造氏は35年間にわたり上海で生活し、中国の人たちと親しく交われ魯迅氏や郭沫若氏などの中国知識人とも深い親交がありました。また戦後、日中友好協会初代理事長を務められるなど、日中友好の礎を築かれました。

片岡先生はご住職であり、また「先人顕彰会・井原」幹事長を務められています。生まれ育った故郷に誇りを持ってもらいたいとの想いが先人顕彰活動のきっかけで教育普及活動にも力を注がれています。



かたおか りゆうじん
講師の片岡良仁先生



岡崎氏が上海・内山書店で購入した書籍

■ 日高先生のご著書『間島の夕映え』を貸し出せます。記念館にお問い合わせください

平成21年度 企画展『岡崎嘉平太とふるさと岡山』を開催

..... 平成21年9月22日(火)～同年11月30日(月)

岡崎嘉平太氏がこよなく愛したふるさと岡山との関係を紹介する企画展を開催しました。岡崎氏生誕の地、吉備中央町は、親戚も多くお墓もあり、戦時中には母のぶ氏やご子息が疎開され、深いつながりがあります。

岡崎氏は幼なじみや恩師との交流や大和山への登頂等を晩年にはことさら楽しみにしておられました。また、岡山の発展には援助を惜しまれず、岡山県企業誘致委員会委員、岡山青年会会長等の役職をもち、たびたび岡山に帰っておられました。岡崎氏は年賀状を数千枚出されるほど交遊が広く、このたびのご紹介は一端に留まりましたが、来館者は写真に懐かしそうに見入れられ岡崎氏と親交のあった岡山出身の偉人 犬養木堂翁や土光敏夫氏、内山完造氏らとの交流や功績を偲ばれていました。展示品の一部をご紹介します。



会場の様子



美土路昌一氏からの書簡

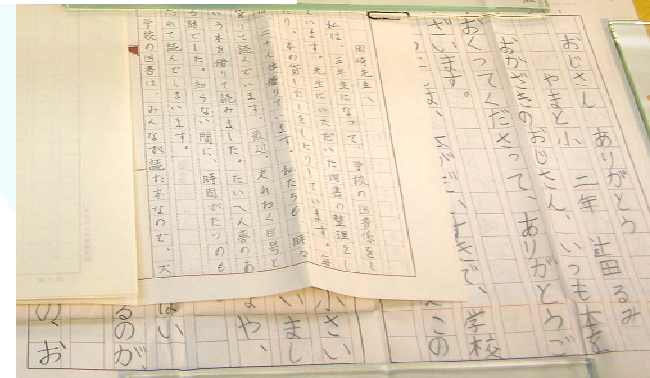


「吉美会」で歓談する岡崎氏と土光敏夫氏(中央) 1978年



犬養木堂翁からの書簡など

大和小・中学校の子供達からの礼状(岡崎氏は母校大和小学校に約1500冊の図書を寄贈しました)



岡崎氏が日高二氏に宛てたはがきより抜粋
「敗戦三十三回忌の今年には終戦記録といったことが新聞紙上賑わっています。読むに堪えませんがこれを押しつけて記録として後世に残さなくてはならないと思っています」



岡崎嘉平太先生と親交があり、当記念館に展示しております岡崎先生が岡山県名誉県民称号を受けられた際の肖像画をお描きになられた画家秋山清水先生が本年四月お亡くなりになりました。

岡崎嘉平太記念館にも大変温かいご支援をいただいております。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。